



いまり SDGs ビジョン

～ 伊万里市が目指すSDGs推進都市の姿 ～

2022/R4



2026/R8



2030/R12

ビジョン

市民及び伊万里市を含む
すべてのステークホルダー
にSDGsが浸透している

役割

市民等への啓発に取り組
むとともに、市自らも
SDGsへ貢献する

事業展開

市民へSDGsの周知・啓
発に取り組むとともに、
市の全事業をSDGsの視
点を持って実施する



- SDGsの推進は、市民やすべてのステークホルダーが**自律的に取り組むことに大きな意味**がある。
- 一人ひとりが「誰一人取り残さない」、「大胆に変革する」という国際合意の視点を重視し、**それぞれが17のSDGsを意識し、考え、行動**しなければならない。伊万里市では、こうした考えのもとに、市民やすべてのステークホルダーと一緒に「**SDGs推進都市**」の実現を目指していく。

■ 伊万里市版ゴール

- ・ SDGsの17ゴールを念頭に置き、市民や伊万里市を含むすべてのステークホルダーが一体となり、第6次伊万里市総合計画（後期基本計画）の重点施策を推進し、将来都市像の実現につなげる。

■ 市民への啓発に関する指針 ※2025/R7の検証時に使用

- ・ 市民のSDGsに関する認知度（聞いたことがある） 90% 【R4市民アンケート 67.6%】
- ・ 市民のSDGsに関する理解度（内容を理解している） 70% 【R4市民アンケート 43.4%】

■ STEP 1（2022～2026）

- ・ 市の全事業をSDGsの視点を持って実施する。
- ・ 市民やステークホルダーへSDGsの周知・啓発や、学習機会の提供に取り組む。

■ STEP 2（2026～2030）

- ・ 既存の事業をSDGsの視点から積極的に変革する。
- ・ 市民やステークホルダーがSDGsに関するそれぞれの課題を認識し、考え行動するとともに、様々な機会をとらえて市と協力・協働する。

-01- ビジョン

重点施策	SDGsの17の目標 ※主なもの					
未来を託す子育て応援都市	<p>1 貧困をなくそう</p> 	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p>8 働きがいも経済成長も</p> 		
未来を先取るデジタル都市	<p>2 飢餓をゼロに</p> 	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	
競争に打ち勝つ産業都市	<p>2 飢餓をゼロに</p> 	<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 			
世界に向けた港湾都市	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 			
SDGs推進都市	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 

SDG s の推進

- ① 伊万里市自らもステークホルダーの一員として、SDG s に貢献する
- ② 市内各部署において、市のすべての事業をSDG s の視点を踏まえた実施や変革を積極的に取り組み、SDG s を強力に推進する

市民等への啓発

- ② 市民や企業など、様々なステークホルダーにSDG s を広く知ってもらおう
- ③ SDG s のさらなる浸透を図り、これまでSDG s に馴染みのなかった新たなステークホルダーの掘り起こしや具体的な行動につなげる

2022/R4 >> 2026/R8

第6次伊万里市総合計画（後期基本計画）の【重点施策5】SDG s 推進都市を踏まえ、SDG s に関する研修会（令和5年3月）を職員の意識改革の契機として、SDG s を念頭に置いた事業の実施や変革に取り組みます。

後期基本計画に掲げる SDG s 推進都市 取組事例

① 職員の意識改革と市民への啓発

各部署が所管する事業を踏まえて、SDG s の貢献に関する宣言等の実施

・ 17のゴールをテーマにしたトライアル事業の実施

③ 移住・定住施策の強化

- ・ 移住相談会の開催や移住情報の発信など移住プロモーション活動の強化
- ・ 移住支援金等の活用によるUIターン移住者への支援
- ・ 市外の若者へのまちづくり活動について情報発信や参加機会の創出
- ・ あらゆる機会を捉えた関係人口の創出
- ・ 企業との連携による事業所のワーク・ライフ・バランスや男性の育児休業取得など

② 脱炭素社会の構築

- ・ カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進
- ・ 再生可能エネルギーの普及・啓発
- ・ 省エネ活動の啓発と実践活動の促進
- ・ 佐賀大学海洋エネルギー研究所の活動の市民への周知
- ・ 照明のLED化や電気自動車等低公害車の導入など環境負担軽減につながる取組

④ 伊万里市版SDG s の推進

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策の推進
- ・ 散弾銃射撃場の鉛汚染対策の実施
- ・ 高齢者いきいき伊万里プランなど高齢者が元気に活躍できる地域づくりの推進
- ・ 複合化施設の整備による市街地の一体的開発の検討
- ・ 高校生をはじめとした若い世代の意見を取り入れたまちづくりの推進
- ・ 地域社会全体での地域文化財の総合的な保存・活用のための文化財保存活用地域計画の策定

2022/R4



2026/R8

各部署がそれぞれに所管する事業を踏まえて、毎年度SDG s の貢献に関する宣言を実施します。なお、毎年4月を基準月として、前年度の宣言を部署内で評価し、当該年度の宣言を行います。宣言の内容は、パネル等へ掲示し、各部署に設置します。

イメージ



SDG s 宣言 企画政策課

私たちは、国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDG s）」に賛同し、SDG s の達成に向けた、継続可能な社会の実現に貢献していきます。

所管する事業を踏まえた貢献 ※指標等の設定は検討中

市内企業のSDG s に関する取組について、児童生徒が学ぶ機会を創出します。



佐賀大学海洋エネルギー研究所の活動を市民へ周知します。



職場内での貢献

事業の企画検討段階で、SDG s の視点を取り入れるよう声掛けを行います。



可能な範囲でデータでの情報共有を図り、ペーパーレスに繋がります。



2022/R4 >> 2026/R8

広報紙や伊万里市版のSDGsパンフレット、CATVなどの媒体により、広く市民へ啓発するとともに、いまりSDGsスクール!の開催をはじめとして、子どもや子育て世代、高齢者など様々な世代を対象にSDGsの学習機会を提供し、浸透を図ります。

令和4年度実施事業

・ 広報伊万里3月号へのスタートアップ記事掲載 【目的】市民への周知・啓発

- ・ インターンシップ制度補助 G⑧働きがいも経済成長も
- ・ アシストスーツ体験 G⑨産業と技術革新の基盤をつくろう
- ・ 子ども見守りGPSシステム試験導入 G⑪住み続けられるまちづくりを

**トライアル
事業**

- ・ リアルスコープ～IMARI株式～
(環境 対象：小学生) G⑫つくる責任つかう責任
- ・ アート泥団子ワークショップ ※西九州短期大学
(環境 対象：小学生) G⑮陸の豊かさを守ろう
- ・ eスポーツ体験“太鼓の達人” ※佐賀県eスポーツ協会
(福祉 対象：高齢者) G③すべての人に健康と福祉を
- ・ 子育て応援カフェ ※西九州短期大学
(子育て 対象：保護者) G④質の高い教育をみんなに

いまり
SDGS
スクール!

2022/R4



2026/R8

令和5年度実施事業（予定）

- ・ 広報伊万里での継続的な周知、CATVでの特集、伊万里市版SDGsパンフレットの作成
- ・ インターンシップ制度補助 G⑧働きがいも経済成長も

【市民】 SDGs プロモーション

G② 飢餓をゼロに（食品ロス）

※既存イベントに併せて講演、試食会

【小学生】 現場見学、ワークショップ

G⑫ つくる責任つかう責任（リサイクル関連）

【中学生】 大学生とのSDGsミーティング

G⑪ 住み続けられるまちづくりを

※学校や家庭での取組目標設定

【子育て世代】 講演、参加者コミュニティ形成

G⑤ ジェンダー平等を実現しよう（育児、家事）

【高齢者】 eスポーツ体験会

G③ すべての人に健康と福祉を（福祉）

2026/R8



2030/R12

SDG s の推進

第6次伊万里市総合計画の振り返りを行う中で、SDG s の推進に関する進捗状況等を踏まえて、第7次伊万里市総合計画と整合を図りながら、令和8年度以降の取組を検討し、決定する。

市民等への啓発

令和7年度中に市民のSDG s に関する認知度を市民アンケート等により調査し、その状況を踏まえて、令和8年度以降の取組を検討し、決定する。